

ジュニアサッカースフェスティバル

H30年12月8日(土)～12月9日(日) 愛川ふれあいの村 主催事業

<1日目>

時折、雲間から日の光が差し込む中、主催事業「ジュニアサッカースフェスティバル」を開催しました。全10チーム、総勢171名が愛川ふれあいの村のグラウンドに集い、サッカーの交流試合や夜のレクリエーション交流会などの活動を通して交流を深めました。



参加チームが続々と集まってきます。チームがはじめてやることは大会本部とグラウンドへのあいさつ。大きな声が響きます。子どもたちはすぐにでも試合がしたくてたまらない様子でした。開会式からは試合に向けて真剣モードに切り替わりました。



試合は礼にはじまり礼に終わります。試合経験が少ない小学3・4年生の試合のため、若干緊張している子どももいました。監督・コーチからの指示をよく聞き、試合に臨みます。試合中も「走れ!とまるな!」「声出して!」と監督からの指示が飛びます。観戦にきた保護者の方々も「行けー!」「やったー!」と飛び跳ねて喜びます。選手は必死でボールを追いかけます。「もっとさがって!」と選手も熱くなります。



1日目の試合は終了。温かい夕食とお風呂をチームごと交代でとり、試合の疲れを癒します。よほどお腹がすいていたのでしょう。何回もおかわりに立つ子どもたち、翌日の試合へのモチベーションが上がります。レクリエーション交流会ではまだまだ元気な子どもたちの声が体育館に響き渡りました。



<2日目>

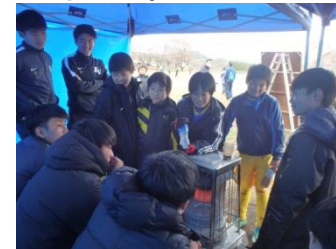
うす曇りの中、2日目が始まりました。食堂で朝食を済ませた後は、グラウンドで朝のつどいを行います。全チームの体調チェックを行い、解散後はチームごとにウォーミングアップがはじまります。あと数試合で順位が決まるため、本部前の対戦結果表にはたくさんの人が群がりました。「もう行くぞ!」と監督に促されて、渋々移動をはじめる子どもの姿も。



試合も佳境に入り、円陣を組み気合を入れるチームも見受けられます。監督・コーチの指示も熱がこもり、保護者の方々も応援に力が入ります。子どもたちも真剣に試合を見学していました。



午前中の試合を全て終え、順位が決定! 結果が待ち遠しく、対戦結果表の前に集まる人たちと、そんなことよりも食欲を優先する子どもたち。昼食はおにぎりとおったか豚汁です。具沢山の豚汁を笑顔でほおばり、試合の疲れを忘れます。たくさん食べて交流試合に備え、早く食べ終わった子は審判をしている神奈川大学のサッカー部の皆さんとボールを転がし楽しんでいました。



交流試合は2チームで合同のチームを作り試合を行います。選手の選定やポジションの決定と試合前から監督間・子どもたち同士での交流がはじまっています。はじめてチームを組む子どもたちは今まで以上にコミュニケーションが必要です。監督・コーチはというと、穏やかに子どもたちを見守っていました。監督の鋭い眼光がなくなったためか、のびのびと動き回る子どもたち。普段できない体験に「交流試合が楽しかった。」との声もありました。



表彰式ではリーグ戦上位3チームに表彰状とトロフィーが渡されました。また、2日間審判をしてくれた神奈川大学サッカー部の皆さんに感謝の気持ちを伝えます。試合や交流試合、レクリエーションと通じてチーム内での交流や他チームとの交流が深まったのではないのでしょうか。この経験を活かして試合に負けない強い心と他チームの選手との交流を深めてほしいです。(文責: 石川)



【参加チーム】



東汲沢サッカークラブ



相模野サッカークラブ



FC 湘南辻堂



金田キッカーズ



大磯 SSS



清新サッカースポーツ少年団



高津 FC



上溝 FC



上矢部 FC



FC バモス

【協力・協賛】



協力：神奈川大学サッカー部
審判



協賛：株式会社 ユカ
飲料提供



協賛：株式会社 寿食品
トロフィー提供